

建設現場のヒヤリ・ハットと安全対策

◎ヒヤリ・ハットとは？

建設現場では多くの作業員、資材、機械が混在し、設備の不備や不注意・不安全行動等が労働災害へつながる危険があります。

そのような環境において作業をおこなっている中、もう少しでケガをしそうであらなかった

「ヒヤリとした！ハットとした！」⇒「放置すると災害につながる」状況を言います。

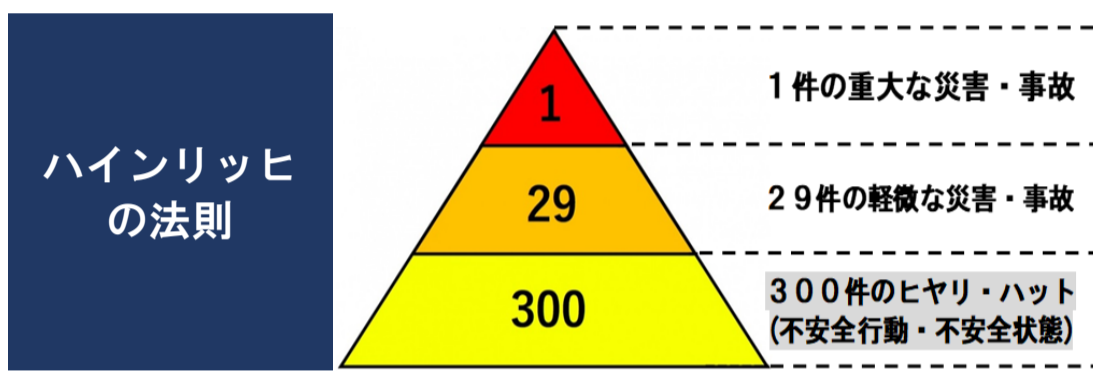
(※実際に災害が起きてしまった事例はヒヤリ・ハットとは言いません。)

◎ヒヤリ・ハットと安全対策

重大な災害や事故と、ヒヤリ・ハットとの関連を具体的に示したものととして、ハインリッヒの法則（1：29：300の法則）があります。

1件の重大な災害・事故には、29件の軽微な災害・事故、300件のヒヤリ・ハットが存在しているといわれています。

ヒヤリ・ハット（不安全行動・不安全状態）事例を集め、ヒヤリ・ハットに対して改善・対策を行い、その情報を全員で共有し、安全対策を行う。



ヒヤリ・ハット活動の基本的考え方

ヒヤリ・ハットが発生したら**職長・作業所長へ報告**する。

報告されたヒヤリ・ハットに対して、**対策・改善を実施し災害防止**を行う。

事業場に於いて各作業所のヒヤリ・ハットを**集計・分析**する。

事業場・作業所に於いて**分析結果を今後の安全対策**に役立てる。

**災害を防止する為
ヒヤリ・ハット情報を共有して
今後の安全対策に役立てよう！**



ヒヤリ・ハット事例

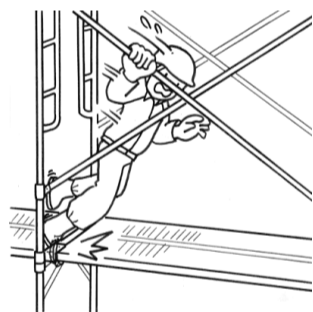
《職場のあんぜんサイト参照（厚生労働省）》

※作業所に合ったヒヤリ・ハット事例を差し込んで教育に活用しましょう！！

墜落・転落

■状況

建設工事現場において、作業床を移動中、布板を結束してあった番線につまずいたが、とっさに枠組足場の筋交いにつかまって、転倒並びに墜落をまぬがれた。



■原因

足場にて結束に使用した番線が飛び出ている、それに足を取られた。

■対策

足場は、段差がないように組み立てるとともに、番線や紐など足が引っかかるおそれのあるものを放置しない。また、法令順守のもと、足場に下さんや幅木を設置する。

転倒

■状況

道路舗装工事において、未施工部分に設置した鉄板の端につまずいて、転倒しそうになった。



■原因

仮通路に段差があった。

■対策

仮通路は、段差つまずきのないよう整備するとともに、目立つよう通路に注意表示すること。

飛来・落下

■状況

建設現場の足場にて資材の搬送作業を行っていた作業員が誤って資材を落としたため、その資材が下で歩行者や車両の誘導していた作業員に当たりそうになった。



■原因

幅木やメッシュシート若しくは防網といった落下防止措置がされていない。

■対策

幅木やメッシュシート・防網による落下防止措置を行う。なお、作業の都合により、ずらしたりする際には、作業手順を確認して、危険がないか確認を行い作業を行う。

切れ・こすれ

■状況

ディスクグラインダーを使用して階段手すりの錆を落としていたところ、砥石の部分が手首に触れてしまいそうになった。



■原因

ディスクグラインダーを片手で使用していた。

■対策

ディスクグラインダー作業は、作業内容に適したカバーで、手持ちハンドルを使用した両手保持での作業を行う。

はさまれ・まきこまれ

■状況

バックホーの誘導作業で、バックホーが方向転換するとき、通行者が来たのでバックホーを背に通行者の誘導をしたところ、後進したバックホーのキャタピラに足がひかれそうになった。



■原因

通行者の誘導に意識が行き、運転手への合図がおろそかになった。また、運転手は進行先への安全確認が不十分であった。

■対策

誘導員はしっかりとバックホーへの合図を行い、その後通行者への誘導を行う。

有害物等との接触

■状況

浴室防水工事において、手持ちのローラーを使用して塗布作業を行っていたところ、しばらくして頭が痛くなり作業を中止した。その後、外気で休んでいるうちに回復した。



■原因

有機溶剤業務を行うにあたり、十分な換気をせず作業に当たった。防毒マスクを使用し作業を行わなかった。

■対策

十分な換気を行う為、窓等の開放を行う。(必要に応じて強制換気) また、有効な保護具(防毒マスク等)を使用する。